



社会的価値あるインフラとなるべく、PEファンドを目指す

ブルパス・キャピタルは2020年11月に創業後、2カ月というスピードで多くの金融機関からの出資を受け、1号ファンド（規模・104億円）を立ち上げた。その後もわずか9カ月で4件の投資を実行するなど勢いがあるPEファンドだ。多くのPEファンドが金融出自であるのとは異なり、ブルパス・キャピタルは、日本では新しい経営コンサルティング出自のPEファンドである。今回、ブルパス・キャピタルが目指すPEファンドの姿について、代表の梅村氏にインタビューを行った。

ブルパス・キャピタルのミッション

私は業界では珍しく、PEファンド業界の出身ではありません。10年超にわたり、様々なPEファンドの投資先の常勤役員、もしくはコンサルタントとして、バリューアップを実現する側の立場で仕事をしてきました。成長局面、再生局面、事業承継と様々な有事の経営を乗り越えてきましたが、自らの経験を通じて、「全力でコミットした外部経営人材は、企業のカバンランスにケミストリーを引き起こし、企業価値に寄与することができる」ということを体現してきました。そこに年齢や経歴は関係ないと思っています。

通常のコンサルティングとは異なり、企業の戦略実現において株式を持たせて頂き、フルコミットでバリューアップする。実行支援型コンサルティングの究極の形として、PEファンドのビジネスモデルを選択したのがブルパス・キャピタルです。

私たちは、次の3つのミッションに共鳴する10名のメンバーにより創業しました。

- ① 真に競争力のあるグロース企業をハズオン支援を通じて、累計100社創出する
- ② ファンド投資を通じて、プロ経営人材

を輩出するためのプラットフォームを創造する

- ③ ファンドマネージャーの能力を最大限に引き出すための環境づくりに努め、それを通じて社会の発展に貢献する

超ハズオンスタイルのPEファンド

PEファンドのスタイルは各社様々で、株主は経営には深く関与せず、伴走型のスタイルをとるPEファンドも多くあります。投資先が自力で業績を伸ばすことができるなら、PEファンドは次の投資先の発掘にリソースを割くことができ、すし、所有と経営の分離という考えにも則っています。しかし、私の体感として、中堅・中小企業がPEファンドに求めていることは、会社を成長させるための、経営支援であることが多いです。中堅・中小企業は豊富に人材がいるわけでもなく、集められるわけでもありません。逆に言えば、正しい戦略でしっかりとリソースを投下できさえすれば、もつと飛躍することができ、企業は非常に多くあります。私どもは、そういった未来の可能性がある、そして社会的意義がある、グロース企業を生み出すために、PEファンドの機能を通じて、全力で支援するスタイルをとっています。そして、コミットする

らには関与するメンバーの全員が自己資金を投じることを義務としています。私どものチームにはフリーライダーのサラリーマンはいません。投資家と経営者の両面の顔をもったチームが、しっかりと企業価値にコミットして協働させて頂きます。

日本の競争力を復活させるためにプロ経営者を輩出したい

日本はいったい経営者になりたいという優秀なビジネスパーソンが非常に多い国だと思います。しかし、日本では経営者になるためのルートは、ものすごく長い出世競争を勝ち抜くか、自ら起業するか、ほぼその二択しかありません。前者は経営者になるころには、引退時期が近づいていきますし、後者はそれなりの企業規模に成長するまでには上手くいっても10年かかります。一方、海外はというと、世界各国の社長の経歴を調べたデータがありまして、日本を除き世界の経営者は若手からずつと連続経営者として歩むといったキャリアが形成されています。経営は実践の積み重ねが必要ですので、プロの経営専門職でやるならば、できるだけ早いタイミングから経験した方がよいと思っています。その点PEファンドの投資先は経営者になるための第三の道になります。

私どもが投資をさせて頂くのは、経営承継であったり、次のステージへの成長の飛躍であったり、経営の節目となるタイミングですので、外部から次の社長候補や、現社長を支えるCOOを招聘します。中堅・

中小企業では、優秀な経営人材が入った時のインパクトは非常に大きく、実際に弊社の投資先においても「会社が良くなった。楽しくなった。」という声を多く聞きます。

私どもが関与することにより、経営チームが活性化し、企業の競争力が上がり、社員が幸せに働ける環境を創る。そういった良い循環を世に広めていきたいと思っています。

最後に、ファンドマネージャーの能力を最大限に引き出すための環境づくりに努めたいというミッションですが、言うはやすしで、これを実現するには結果の両輪が必要です。これは私どもの投資先の社員に対しても同じ考えを持っています。「人は城、人は石垣」と先人が言ったように、社員による強固なチームなくして企業は成り立ちません。弊社のチームメンバーは若く、幼少期から日本の経済成長を経験していない世代です。強い日本を取り戻すために一石を投じたい。そのために私どもができる手段として、ブルパス・キャピタルを創業いたしました。

代表取締役
梅村 崇貴



多くのPEファンド投資企業や再生局面の常勤役員として、経営改革、成長戦略、M&A戦略の実行に従事して、バリューアップを実現。その経験を活かして、2020年11月にブルパス・キャピタル（ファンド規模：104億円）を創業し、2021年は4件の投資を実行する。

